

Q4：来年度以降、「英語ノート」が配られるようですがどのように扱えばよいのでしょうか。

A4：「英語ノート 5年生、6年生（試作版）」は、全国の拠点校で試用して改善を加えた後、来年度以降、「英語ノート1、2」として全国の5年生、6年生の児童に配布されます。「英語ノート」は、学習指導要領に示された外国語活動の目標及び内容を具現する共通教材として、文部科学省が作成しているものです。従って、それは実際に活用する教材という側面と同時に、外国語活動においてどの程度の英語を扱い、どのような活動を展開するのかといった課題に対して、具体的な指導内容を示すモデルカリキュラムとして機能することになります。外国語活動は教科ではなので教科書はありません。「英語ノート」は、あくまでも補助教材であり、法的な使用義務はありませんが、これから私たちが目指していく外国語活動の目標及び内容を実現するための教材として大変参考になるものです。以下の例を参考にしながら、積極的に活用しましょう。

これから年間指導計画を作成する学校

「英語ノート」の指導資料に示されている指導計画等を活用しましょう。

35時間より少ない時数で英語活動を実施している学校

「英語ノート」で扱われている内容と比べて、不足しているものがあれば取り入れてみましょう。

35時間程度で英語活動を実施している学校

「英語ノート」で扱われている内容を参考に、自校の指導計画において、学習指導要領に示された目標や内容を踏まえているかどうか見直してみましょう。

なお、「英語ノート」の活用にあたっては、別添「英語ノート 5年生（試作版）分析表」を参考にしながら、以下の視点から分析すると効果的です。

コミュニケーション（場面や具体的な活動）

英語表現や語彙

言語や文化（日本語と外国語との違い、英語以外の外国語、扱われている外国の文化や生活等）